

2022 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銀賞

工場返還 —廃工場が市民によって分解される物語—

林 拓実 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

銀賞

器とフィルター —自然と造成の境界に建つ建築—

谷敷 広太 室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科

銅賞

E-cycle plant 都市に馴染む複合クリーンセンター

渡邊 智帆 北海学園大学工学部建築学科

銅賞

釣師の離れ

小山内 一真 北海道科学大学工学部建築学科

2022 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

芽生

梁 憲杰 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

銀賞

畝り繋ぐ駅

竹田 隼人 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学

銅賞

「たまり場」—釧路高専学生寮における新しい集いの空間—

小椋 悠加 釧路工業高等専門学校創造工学科

銅賞

cinema 四季を纏う映画館

菅野 色巴 青山建築デザイン・医療事務専門学校建築設計デザイン学科

2022 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

縁—en— ～That links peoples～

飯田 琳久 北海道旭川工業高等学校建築科

銀賞

ニンソウ

蜂谷 美来久 北海道函館工業高等学校建築科

銅賞

津軽海峡水族館

木村 絢 北海道函館工業高等学校建築科

## 2022 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銀賞

工場返還 — 廃工場が市民によって分解される物語 —

林 拓実

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



今回の計画となる秩父セメント第2工場は日本の高度経済成長期にセメントの需要の高まりにより建設されたものであり、現在では規模を縮小し事業継続されているが、昨今空き建屋が増加している。日本のモダニズム建築の重要な位置を示す工場建築群としての価値は高く、産業アーカイブの継承と同時に都市景観アーカイブとして工場建屋を利用することを考えた計画である。

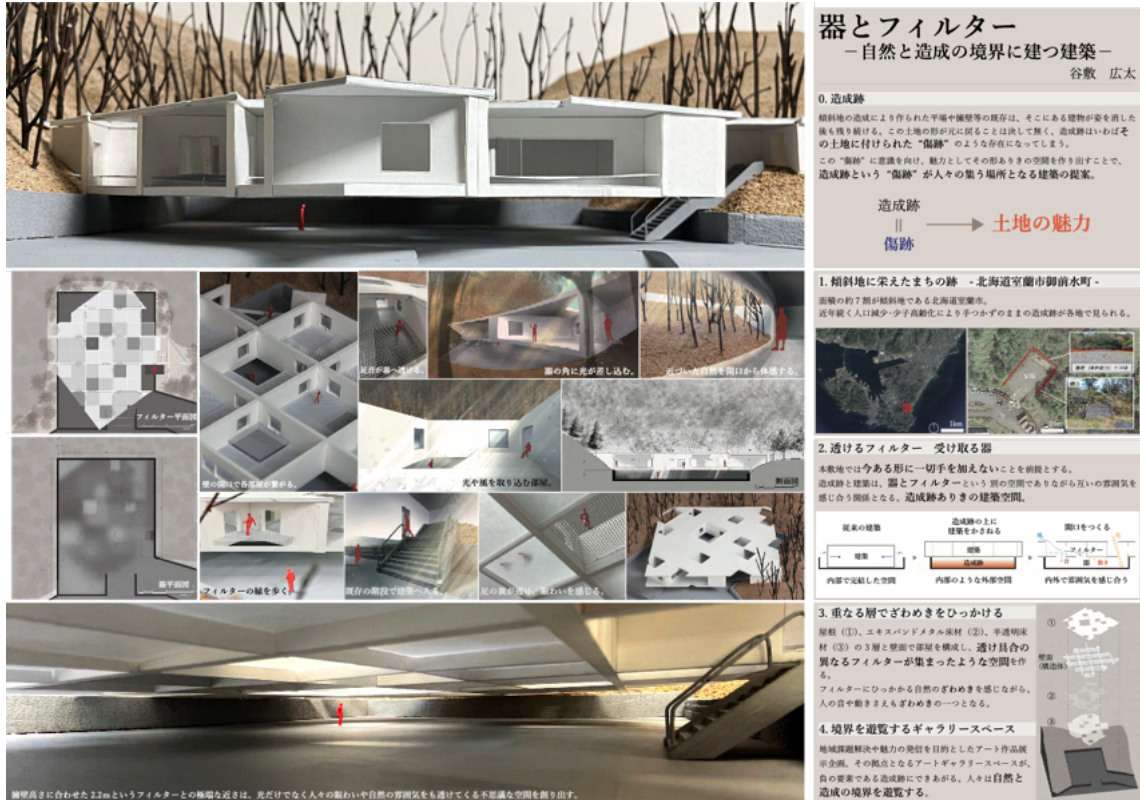
時代の経過により、内部空間が更新され「適応再利用」を目指す計画であり、役割を終えた工場は市民の介入により人々が集う空間や居住空間、自然の樹木などが徐々に追加され内部が都市化されアクティビティが溢れる。日本の社会が抱える建築のデットストック利用を循環型モデルとして捉えた着眼点は評価されたが、市民が介入し更新される空間に新しさを感じられず、銀賞となった。(小西彦仁)

銀賞

器とフィルター —自然と造成の境界に建つ建築—

谷敷 広太

室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科



最も私が好きなタイプの建築作品の類であり、考えの様相は西沢立衛氏の豊島美術館に似ている。室蘭という地の「傷跡」と称している造成地から発想を変換し光や風の濃淡を表現している。拡散と凝縮を繰り返し、単純でありながら自然発生的な美しい情景が想像できる。開口部の大きさが一定すぎることは少々残念であるが、その点を改善すればもっと、より濃密な空間を可能にしただろう。また、一番下が砂利のままで光を正確に捕獲できたかは疑問ではあるが美しい力作であることは称賛に値する。(中山真琴)

2022 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銅賞

E-cycle plant 都市に馴染む複合クリーンセンター

渡邊 智帆

北海学園大学工学部建築学科



市民にゴミ問題を認識してもらうため、札幌の都心にゴミ処理場を建築する提案である。卒業設計らしい大胆さが際立つ作品だが、都市・交通計画、地域熱供給、省CO2など様々な視点から調査・分析をおこない、提案の合理性・必然性を提示していること、30年後の姿を考慮している点が高く評価された。一方、多岐にわたるプログラムに応えた結果、やや説明的な建築との印象を受けた。札幌の新しい都市景観やイメージもぜひ提示してほしいと感じた。以上の点より、銅賞がふさわしいと判断した。(小倉寛征)

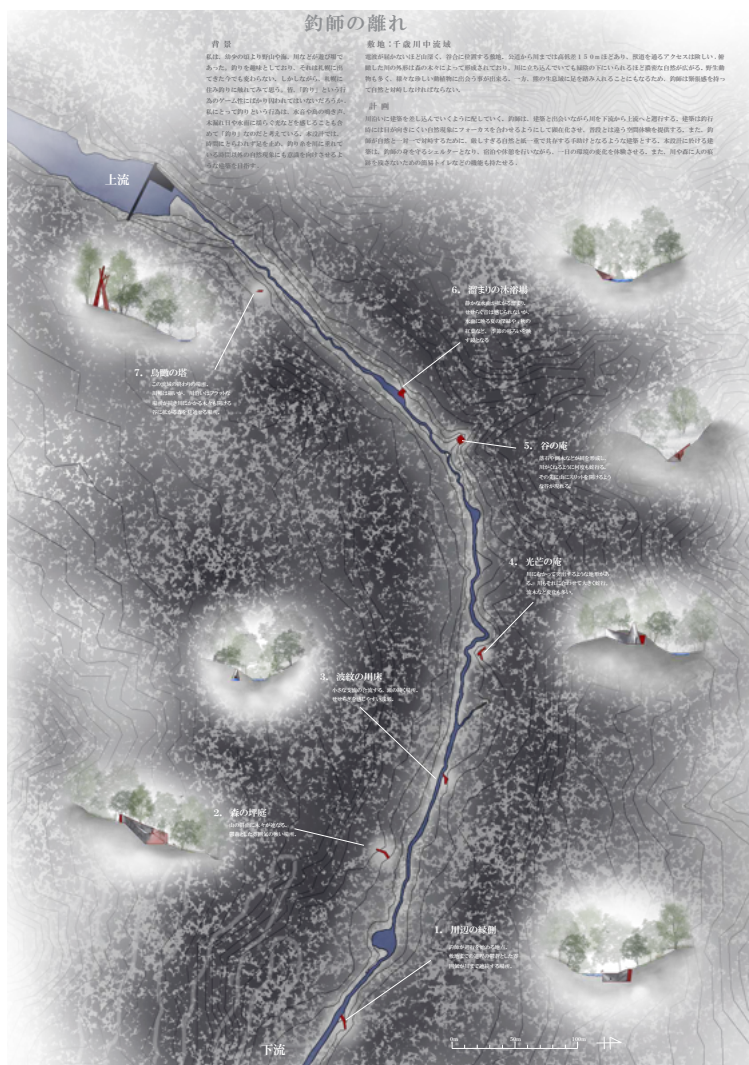
# 2022 年度卒業設計優秀作品 大学の部

## 銅賞

### 釣師の離れ

小山内 一真

北海道科学大学工学部建築学科



釣師である作者が訪れ大切にしてきた千歳川中域の自然の姿を、釣り以外の時間に、河川の地形に沿った最小の建築を通して時を過ごし、身体全体で体感する。

7つの建築は、最低限のシェルターとして、地形と敷地特性に沿って、鉄板により計画され、ミニマムな空間から体感する千歳川流域は、訪れる人と時空を超えて一体化し、感性に響く新たな視点の作品であり、本作品を銅賞とする。(遠藤謙一良)

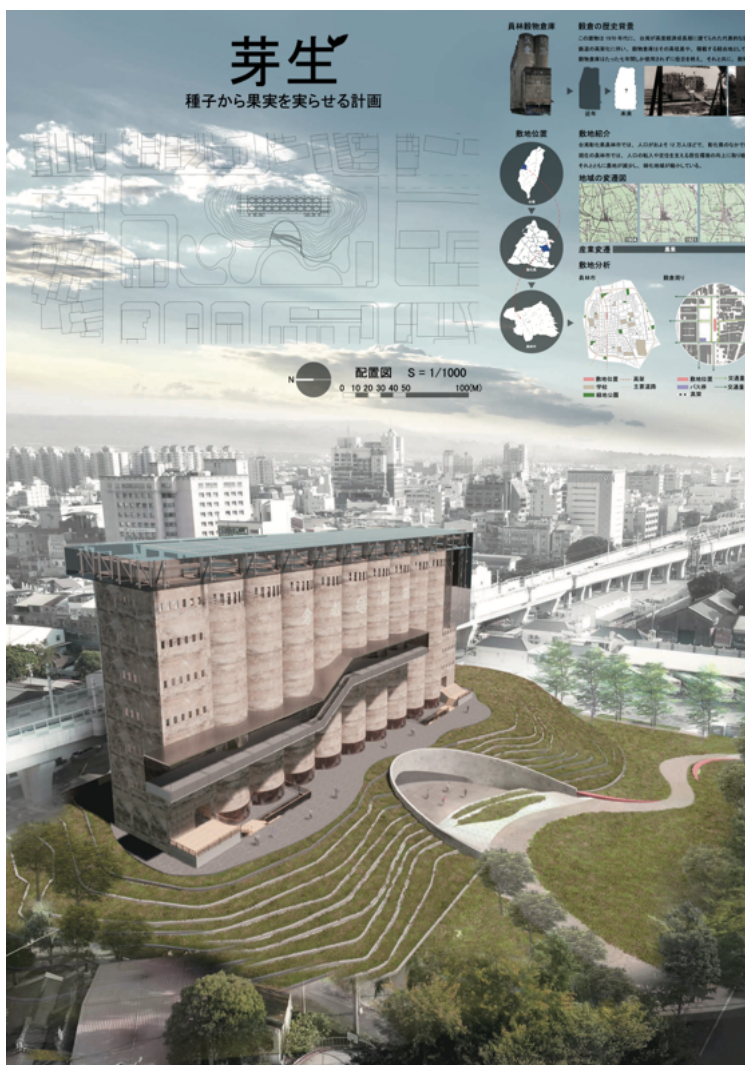
2022 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

芽生

梁 憲杰

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



台湾にある穀物倉庫をリノベートしたアイデア満載のプロジェクト作品である。現在残っているこの巨大なサイロ群を美しいと捉えているところから始まり、交通処理や飲食に至るまで、更に街の活性化や公園化まで解決している。まさに種子から果実を実らせている。構造計画はやや不安なところもあるが大変な力作である。円筒状の群れの美しさやスパッと切ったところの断面の美しさに気付けば更に良い作品になった事は想像できる。表現の緻密さも評価したい。(中山真琴)

2022 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の一部

銀賞

畝り繋ぐ駅

竹田 隼人

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



北舟岡駅の再生計画である。

敷地は高低差があり、南面に内浦湾、西方に昭和新山と伊達市の街並みが広がる。

駅のもつ特性を活かし、入口から駅舎に向かってS字にアプローチし、美しい景観のパノラマがゆっくりと展開する。夕景に輝く昭和新山の山並みを大きく望む建築は、敷地の高低差を利用し、駅の上空に吊り構造で浮かぶ。駅の屋根として機能し、ガラスと上空の建築は、駅舎の機能に、展望台として敷地の価値を築いた“新たな場所”の創造であり、造形としても優れ、高く評価される作品であり、本作品を銀賞とする。(遠藤謙一良)

2022 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

銅賞

「たまり場」— 釧路高専学生寮における新しい集いの空間—

小椋 悠加

釧路工業高等専門学校創造工学科

「たまり場」  
— 釧路高専学生寮における新しい集いの空間—

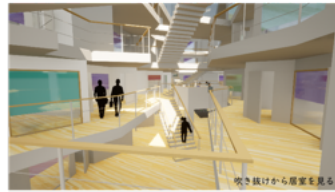
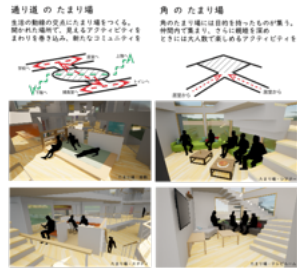
▶ 提案背景  
寮の集いところは実況と一緒に過ごす、助け合えるということである。しかし、ここ数年はコロナ禍における規制なども追加され、窮屈さが増している現状がある。感染症予防のために制限が設けられ、他人との接触を控えるようにすることは仕方ない部分もあるが、寂しいところが残っていると感じる。

▶ 提案  
そこで私は、規制や制限などについての不満を建築の面から解消できないか、ということとして「たまり場」を組み込んだ新しい学生寮の改築を提案する。学生の孤立感・不安感を少しでも軽減させ、自分の居場所を見つけられる、そんな建築を目指す。

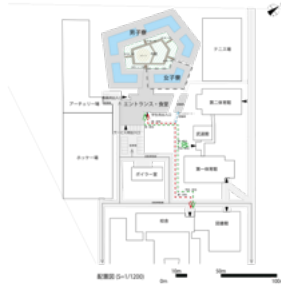
▶ ダイアグラム  
居室とエントランスを機を分け  
居室棟はおおまかに5つのブロックにする  
↓  
全体に回遊性を持たせ、吹き抜けを囲うように  
居室・たまり場を配置する



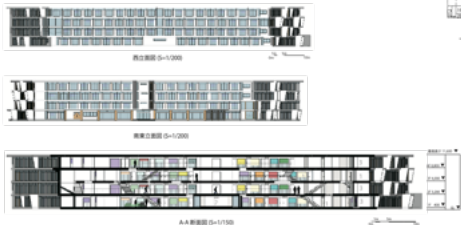
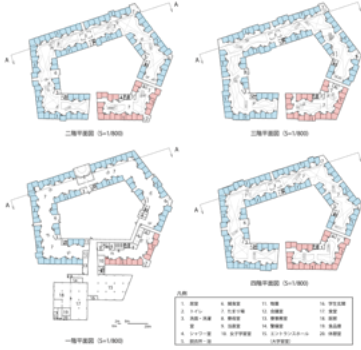
▶ コンセプト「たまり場」  
様々な価値観を持った人と関わることによって人間関係を学び、自分を知り、さらに人間として成長できる。そのように人と接点を持てるきっかけになる場を提供する。



▶ 配置計画



▶ 平面計画



作者が通う学校の学生寮の建替えのプロジェクトである。コロナ禍を背景として日々感じられるストレスや学生からのアンケート回答により具体的で現実的な設計課題を「たまり場」として設定した。多くのスタディの積み重ねにより、様々な交流の場としての多様なバリエーションを持つ「たまり場」が提案され、その空間が吹き抜けや階段を介し、有機的につながり豊かな内部空間を生み出している力量は評価に値する。欲を言えば中庭との関係を追求し外部を取り込んだもう一つの「たまり場」ができるとよかったと思うが、力作であることには違いなく、銅賞として評価した。(菅原秀見)



2022 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

銅賞

cinepa 四季を纏う映画館

菅野 色巴

青山建築デザイン・医療事務専門学校建築設計デザイン学科



技術の進歩が情報（メディア）の変化を生む。スマートフォンがあればどこでも情報を得ることができる時代だからこそ、空間や時間を固定して過ごす時間が特別になる。そこには人が足を運ぶ理由が必要であり、特別な体験を期待する。本作品は、シネマコンプレックスやブックストア、コンセプトショップなど既存の施設の組み合わせに終わらせず、リモートワークやレンタルスタジオなどシネマを契機とした新たな「メディアテーク」を模索している。また、模型や図面などとともに説明文もわかりやすい。総合的な評価が高く、ここに本作品を銅賞とする。（斎藤文彦）

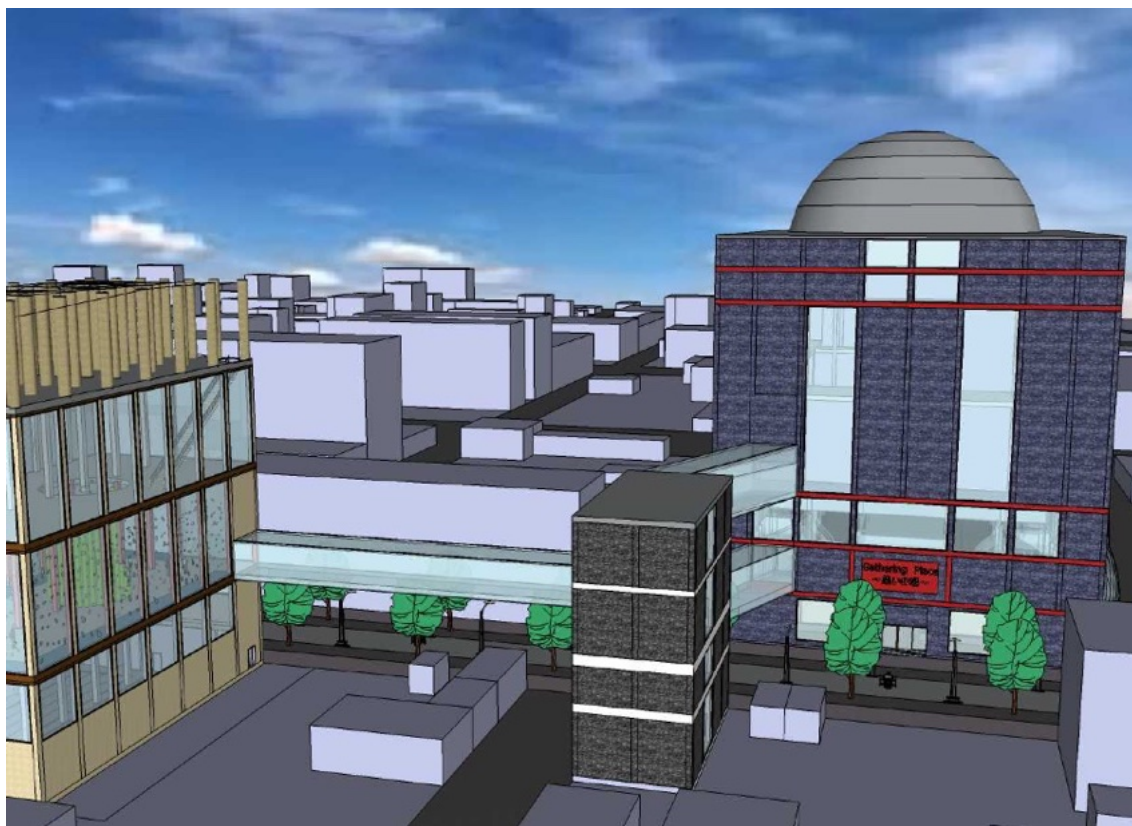
## 2022 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

縁—en— ～That links peoples～

飯田 琳久

北海道旭川工業高等学校建築科



旭川駅から8条通りまで約1kmに及ぶ買物公園は日本初の恒久的歩行者天国として1972年に開設された。しかし時代の経過とともに駅から離れた公園両サイドの店舗が次々と廃業、かつての賑わいは消えつつある。そこで今回の提案は6条通りに動物園の要素や水族館、ギャラリー、体育館、VR観戦、プラネタリウムなどの各機能を詰め込んだA棟。受付機能のB棟、プールやアスレチックから成るC棟と多様な施設をつくることにより、再び買物公園に市民をはじめ観光客を呼び込むための計画を提示している。各棟は公園を挟みブリッジで結ぶことによりさらにシンボル性を高めている。建物のコンセプトは「縁」であり、ここで多くの人々が交流し、集う場所ができ「縁」を結ぶことを望んだ秀作である。多様な空間をまとめた力量は金賞にふさわしい。(小西彦仁)

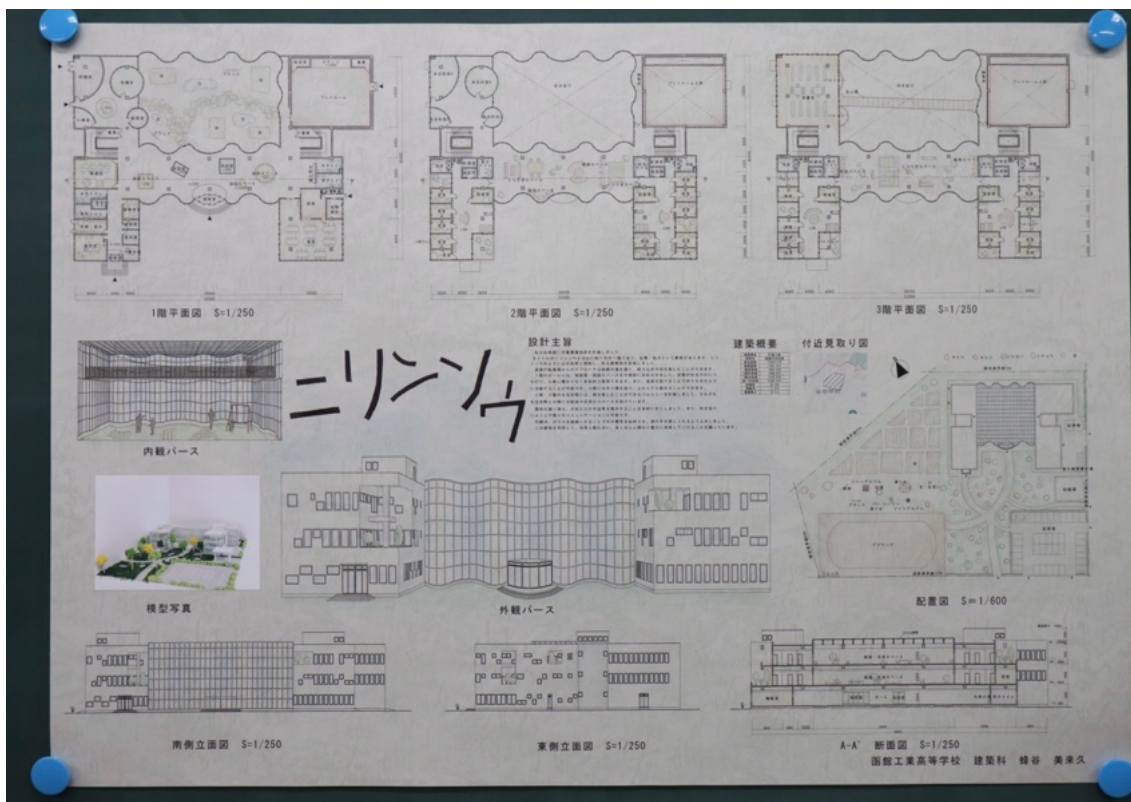
2022 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銀賞

ニリンソウ

蜂谷 美来久

北海道函館工業高等学校建築科



函館谷地頭に計画された児童養護施設。4,000 m<sup>2</sup>以上の規模に対して、吹き抜けやくつろぎスペース、LDK を設けることで子供たちの生活に向き合った計画となっている。効率性の追求や四角い部屋が並べるだけで生み出せない楽しい場が提案されている。一つの敷地にこれだけの機能を破綻なくまとめており、図面やパース、模型で丁寧に表現された本作は工業高校の作品として優れていることから、本作品を銀賞とする。(斎藤文彦)

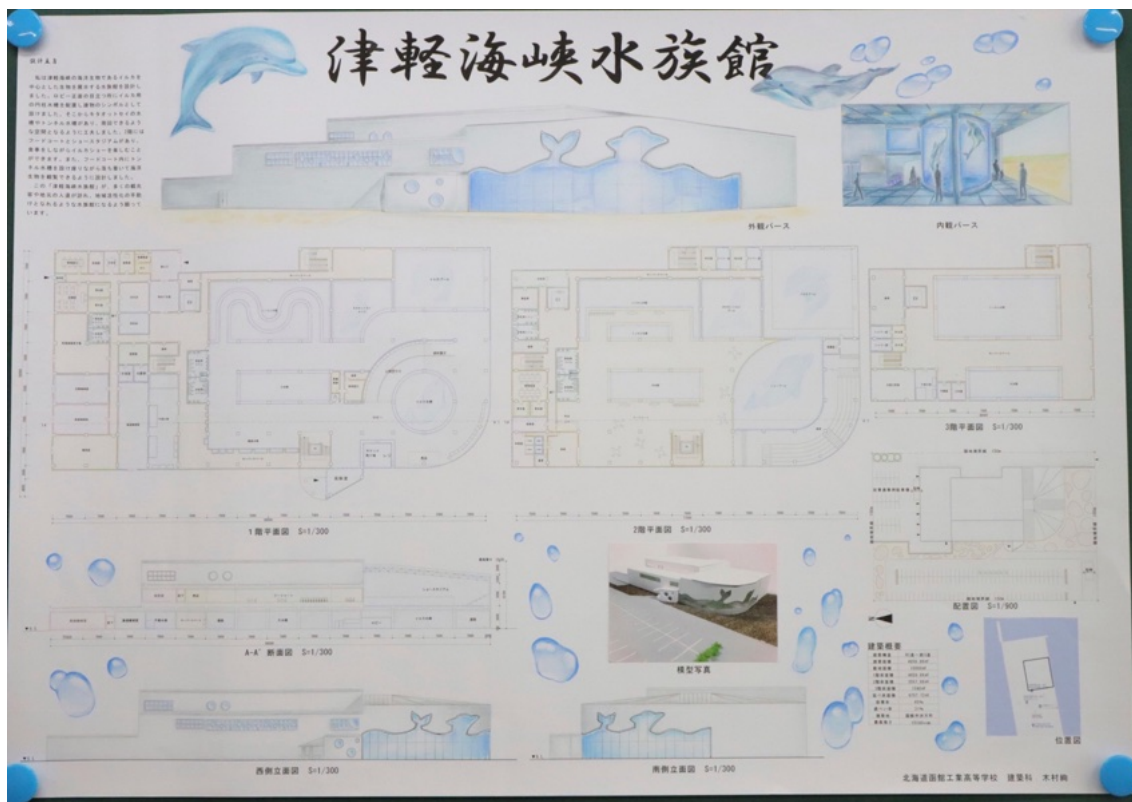
2022 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銅賞

津軽海峡水族館

木村 絢

北海道函館工業高等学校建築科



イルカをモチーフとした外観デザインがとても印象的な水族館の計画である。デザインだけではなく、様々な展示方法や鑑賞方法、来館者を奥へと引き込み動線、水族館を支える機能の整理など、丁寧な事例調査や建築計画がなされたことが読み取れる。また、水色を基調としたプレゼンテーションからは、作者の大切にしたいイメージや地域活性化への思いが表現されているように感じられた。以上の点より、銅賞がふさわしいと判断した。(小倉寛征)